

カリフォルニア・ミッドウエストスタイルを、クリエイターなあの人が、注目イベント 会場でサンゴリッパ

THE DAY

STYLE FILE & SNAP

2017 SUMMER

STYLE SAMPLE

クリエイターズスタイル・ファイル
& サマースポット・スナップ



THE DAYの
次に履きたいスニーカー
コレクション



サマーフードは
西海岸気分のバーガー&ピザ!!

とある部屋

第九回 夏の夜気に、ゆれる。

styling | Shinya Endo photography | Kenji Nakamura
story | Senichiro Ozawa

ロッキングチェア ¥43,000 (シカデザイン)、こもれびうちわ ¥4,500 (杉原商店)、ピッチャー ¥9,500 (スガハラ)、トアコードレスライト ¥29,000 (アンビエントック/すべてセンプル ホーム ☎03-6407-9081)、ラグ ¥18,900 (バベリナ)、シトロネラスパイラルインセンス ¥850 (カメラマキャンドルハウス)、デジタルロックラジオ ¥10,500 (ブラウン)、デスクオーガナイザー ¥16,900 (ピヨンドオブジェクト)、マグ ¥2,500 (ジャス)、ハースツール ¥50,000 (マスプロダクションズ/すべてリビング、モティーフ ☎03-3587-2784)、ティバック ¥29,000、マックブックケース15インチ ¥8,500 (ティスバッツ / ともに林五プレスルーム ☎03-6452-2177)、ヴィンテージペンダントランプ ¥45,000 (フィリップス/クスクスファニチャー ☎03-3460-2530)、ヴィンテージテーブル ¥12,000、オールドシガレットケース ¥3,500、スケールロック ¥8,000 (シズン/すべてメモ ☎03-3498-9100)、その他スタイリスト私物



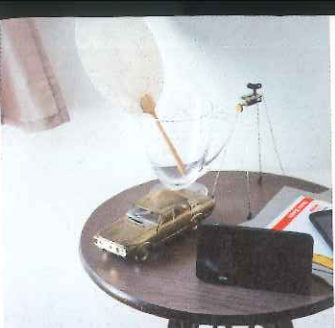
冬はあたたかい布をかけて、夏はそのまま使える涼しげな籐のロッキングチェア。デンマークブランド〈シカ デザイン〉の藤家具は、質が高く時間をかけて楽しめるので、世界中のリゾートやホテルで長く愛されている。



ベクトル用のポケットや上着をまとめられるオーガナイザーもあり、PCや書類を入れるスペースもあるバックパックと、コードまで収納しやすいMacBookケースは〈ティスバッツ〉のもの。軽量でとにかく使いやすい。



アウトドアやガーデニング、ベランダで一服、なんてときも意外と重宝する蚊取り線香。イネ科の植物で虫よけになるハーブ「シトロネラ」は、爽やかなレモンの香りが気分をリフレッシュさせてくれる夏の強い味方。



70年代のヴィンテージテーブルの上には、ラジオ機能を搭載したデジタル時計、薄くやかな越前和紙の京うちわ、それからiPhoneにノート・ブック。新しいものも古いものも、ひとつのスタイルで楽しむということ。

今

日はこの夏の一番の暑さになると、朝のラジオで言っていた。ディスクジョッキーは熱中症に気がつけるとつけ加えながら、パブリック・エナミーの「フアイト・ザ・パワー」を流した。Phoneにセットしていたアラームはいつの間にか止まっていた。顔を洗う。昨夜も使ったタオルは嫌な臭いがした。コーヒーを飲みながら、メールチェックをする。だいたい寝てる間にくるのは、海外から数件、それからフェイスブックっていろいろ？

その二コーズフイードと迷惑メールが数件、だいたいそんなものだ。仕事関係の人物から深夜に着信がきてると、ヒーヒー言ってる。徹夜をきていたときを思い出して、ニヤけてしまふ。自分に少し近い人が徹夜をしている朝は、なぜかコーヒーがうまい。嫌なやつだと自分でも思う。不思議なもので、密集するビルが青空を遠くするこの街でも、蝉は鳴いている。どんなにコンクリートとアスファルトで厚化粧しても、彼らが育む土の帝国を隠すことはできない。それは、夏空の下で、一滴も汗をかかないで歩くのが不可能であるということと同じだろうか。にわか雨の後の真夏のアスファルトの乱反射は美しいから好きだった。雨にぬかるむ土は苦手だ。現代人の自分は蝉と逆サイドにいるのだろうか。だけど、きつと土に還るべきなのだろうな、人間も。そんなことを考えていると、あつという間に出かける時間になる。本当に、とても暑い。2回とプラス1はたいしたフレグ

ランスはリヨンで創設された伝統ある窯「ジャス」による美しいマグカップ、自然な光を打すコードレスライト、アート作品のようなペンスタンド、デスクトップとその周りの風景は、仕事に向かう気持ちを整えてくれる。

今はアイスコーヒーを飲むのは真夏のさらに局地的な暑い日、2日か3日だけになった。パリでアイスコーヒーがないと嘆いたあの夏には想像もできなかった。暑過ぎて、今日一日の出来事なんて、かげろうのようにゆらぐだけだ。

ラジオのディスクジョッキーが言っていた通りだった。本当に暑い日だった。早く家に辿り着きたかった。部屋に戻ると、窓を全開にした。電気を点けるかわりに、途中になつてた映画を再生した。真夏のストーリーなのに、とてもさみしい。せつない。カーテンが揺れた。なまめい風と一緒にこの街独特の夏の夜気が入ってくる。同時に、ピルの向こう、どこか遠くでロケット花火で遊ぶ音がした。パブリック・エナミーの「フアイト・ザ・パワー」はもう聴こえなかった。夏が好きなのかどうか。つい最近まで自分でわかってきた気がするけれど、今はわからない。ただ、今夜も眠れないで夜気にあおられる人びとがいるのだろうと想像すると、おかしかった。夏っぽいなど思った。

REISM



「Union」と名づけられたこの部屋は、REISMのリノベーション賃貸シリーズのひとつ。リズムカルなパーケットフローリングにブラックのアクセントがモダンな仕上がり。可動式の棚やハンガーラック、作業台があり、機能的な一室。



「とある部屋」を用意してくれたREISM (リズムム) は、都心で約20~30代の「スタイルのある」シングル向けリノベーションルームを提案するライフスタイルブランド。あたらしい暮らしに出会える。www.re-ism.jp